

平成 22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472000981	事業の開始年月日	平成16年8月1日
		指定年月日	平成16年8月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ平塚南原グループホーム		
所在地	(254-0065) 平塚市南原3丁目8番17-6号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員 名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 名	
		宿泊定員 名	
		定員計 18名	
		ユニット数 2ユニット	
自己評価作成日	2011.1.22	評価結果 市町村受理日	平成23年5月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に公共の公園等が沢山有り、季節の花々を觀賞しに外出が可能であるため、月に1回は外出及び外食を家族と共に行い、気分転換を図ると共に家族との交流に努めています。また、職員が毎食手作りしてお食事を提供している為、季節ごとの行事食を敏感に提供できています。地域の方々に受け入れられている為、地域の行事にもお誘いを受け、積極的に参加することができています。スタッフの異動が少なく、家族・利用者様双方と顔なじみの信頼関係を構築できている為、スムーズな介護を提供できています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年3月8日	評価機関 評価決定日	平成23年5月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<事業所の優れている点> ◇運営理念の実践 運営理念「明るい笑顔と心を込めた介護で利用者様に接します」を実践する上で職員は余裕を持ってサービスを提供している。日常の会話の場面、食事の際でのやり取りで利用者にも職員にも笑顔を見ることができた。 ◇家族との連携 事業所では家族との連携を深め、家族との信頼関係を構築している。具体的には運営推進会議に家族が参加し活発な意見交換が行われており、毎月発行している「ミモザ便り」に利用者の様子の写真を掲載して家族に届けている。家族も行事に参加し共通の話題作りや、多くの家族が月1回以上来訪し職員との意見交換、年2回行われている家族会の総会などを通じ家族との連携を深めている。
<事業所が工夫している点> ◇利用者の意見取り入れた食事 利用者の希望に基づいて献立を作成している。献立の内容はおかずの品数が多く利用者の意見が取り入れられている実態が見られた。また、食事(おやつを含む)の際にできるだけ乳製品を取り入れる工夫も行っている。

図

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ平塚南原グループホーム
ユニット名	さくら壺番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所：ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事業所独自の理念と職員の介護の心構えとしての理念10か条を掲げ、管理者と職員は、話し合い、理念を共有しサービスに反映するよう日頃から努めている。	・独自の運営方針「明るい笑顔と心を込めた介護で利用者様に接します」を作り会議などで周知を図っている。 ・職員は笑顔を絶やさず日々のサービス提供に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会、町内会に加入して地域の行事に参加し、また地域ボランティアの受け入れや地元の小・中学校との交流を行っている。	・自治会に入会し地区レクリエーションなどの行事に参加し地域との交流を深めている。 ・書道、傾聴支援などで地元のボランティアを受け入れており、また、福祉体験の中学生との交流も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域住民の介護相談などを積極的に受け、地域住民が気軽に立ち寄ってくれるホームを目指している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・3ヶ月ごとに自治会長、地域包括センター職員、家族代表、当施設職員の参加で開催し、要望などを共有しサービス向上に活かしている。	・運営推進会議は3ヶ月ごとに行っている。行政からの出席はないが地域包括支援センターの管理者が出席している。 ・会議で避難訓練の結果報告が行われ、通報の仕方について話し合われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・平塚市のグループホーム連絡会や研修会に積極的に参加をして、サービス向上に努めると共に、不明な点は介護保険課に確認している。介護相談員を毎月積極的に受け入れている。	・介護相談員が毎月来訪し利用者の相談相手になったり、また、面談を通じて事業所の実態を把握してもらっている。 ・市の職員も参加しているグループホーム協議会で意見を交換したりしている。	

事業所：ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束をしないケアについては、マニュアルもあり、また、委員会を作りスタッフが常に意識できる環境を作って取り組んでいる。	・マニュアルに身体拘束廃止を明記し、所長、管理者などで構成する拘束防止委員会で拘束しないケアについて話合っている。 ・玄関は防犯、2階のフロア玄関は安全性を考慮し施錠しているが、居室は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	・利用契約書、重要事項説明書に明記、虐待・拘束の厳禁を各職員に徹底すると共に、外部研修会への積極参加促進を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・地域福祉権利事業や成年後見制度についての研修に積極的に参加し、職員間で内容の共有化を図り、意識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・利用契約時にしっかり説明し、納得を頂いた上で契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ケアプラン作成時、利用者やご家族の希望を聞いたり、日常生活の中で利用者と職員が信頼関係を築き、利用者が意見を自由に言える様努めている。	・運営推進会議や家族会で利用者や家族の意見、要望が出されている。また、多くの家族が毎月1回以上来訪するので、そのとき意見を聞き、事業運営に反映するように努めている。	

事業所：ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のスタッフ会議や毎日の申し送りに中で、意見交換等 は行われており、要望書の提出も 行われている。	・毎月行っている全体会議やフロア 会議で職員に意見を聞いたり、年1 回人事部長との個別面談で職員の意 見、要望を聞いている。 ・職員からの意見や要望はその都度 検討して運営に反映するようにして いる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・勤務実態について、代表者は 毎月把握しており、スタッフ会議等 で出される要望についても、検討し 回答するなど環境整備に心がけてい る。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・代表者は、個人別研修の記録 により計画的に外部研修を受け られるよう体制を整えている。 また、社内で研修センターを作り、 それぞれの立場で育成を行う取 組みが確立している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・市内のグループホーム連絡会 に積極的に参加し、他グループ ホームとの相互研修を行うなど ネットワーク作りに努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居事前相談時より利用者が 持っている不安、困難、疑問を 時間をかけてお聞きし、「傾聴と 需要」の姿勢を忘れずに信頼 関係を築くよう努めている。		

事業所：ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の一番困っていること、心配事をお聞きして、必要と思われる情報を積極的に提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談をじっくり聞き、入居が適切か他のサービスが適切かを見極め助言している。情報の提供は行われており、一緒に一番適切なサービスを探っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常生活の中で、各ご利用者の得意だったことを教えてもらったりして支えあい、些細なことでも、目標を持って取り組むようにしそれが出来た時は職員と共に喜びを分かち合っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族も一緒に行事に参加していただき、共通の話題を持つ機会を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・今まで大切にしてきた友人や親族と自由に交流できるよう訪問を歓迎している。	・利用者の意向を汲み取って馴染みの美容院、図書館を利用するなど、従来の生活が継続できるように配慮している。 ・友人の来訪時には面会スペースを用意し、お茶など提供している。	

事業所：ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者が孤立しないで交互に交流できるよう職員が配慮している。気のあった仲のよい利用者同士で散歩したり、席の配慮を行うなど声かけにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去された利用者の家族でも、いつでも相談にこられるように話をしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・毎日の生活の中から利用者夫々の思いや希望を把握するよう努めている。聞き取り困難な利用者についても、職員の意見や家族の意向から汲み取るようにして、情報を共有している。	・利用者と職員は日々の生活の中で信頼関係を深め、思いや意向を把握し、内容を申し送りノートに記載し職員で共有している。 ・意思疎通が困難な利用者には、家族からの情報や日々の行動や仕草から思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・親族や利用者から生活歴や暮らしぶりを聞き、これまでの生活についての情報を得ながら個人の生活を大切に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・利用者の現状を把握して、一人ひとりの1日の過ごし方を一緒に考える。		

事業所：ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・利用者の残存機能を活かした自立支援に向けてカンファレンスを毎月開催している。カンファレンスには、家族が参加していただきケアプランに反映し作成している方もいる。	・担当者が利用者や家族の意向を日頃のかかわりの中で把握し、毎月のケアカンファレンスで職員間で意見交換を行っている。 ・介護計画は原則3か月ごとに見直しているが、利用者の状況に応じ、適宜修正を行っている。作成した介護計画は家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の介護記録は個別に記入し、職員同士情報を共有しながらケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・家族の宿泊に便宜を図っている。また、家族を対象に認知症に対する勉強会を開催している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・自治会、近隣住民、地域包括支援センター、職員が参加する運営推進会議を開催し、地域ボランティアなどと協働して支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医院の医師が、月2回往診していて、ご利用者の現状を把握している。また、家族の希望を尊重して、納得のいくかかりつけ医を利用してもらっている。	・かかりつけ医の受診は家族の意向を尊重し継続し、通院の付き添いは原則家族が行うことにしている。 ・ほとんどの利用者は入居の段階でかかりつけ医から事業所の協力医に家族の同意を得て切り替えている。	

事業所：ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日常の健康管理について気軽に相談でき支援も顔なじみの看護師に相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・医療機関と連携を密にして、早期退院に向け情報交換。相談に努め支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化や終末期ケアについての対応は、家族の意向と事業所の意向を共有化し、支援に取り組めるよう努力する。	・重度化や終末期の対応については、契約段階で文書「重度化、看取り介護した場合の対応に関する指針」を説明し了解を得ている。しかし、現時点では対応の実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時のマニュアルがあり、全職員は消防署が行う救急救命措置を必ず受講しており、応急対応を行うことは可能である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災避難訓練や職員による消火器取り扱い訓練が年2回実施されている。非常時にすぐかけつけられる職員が多数在住している。加えて近隣の住民からの協力の約束がもらえている。	・年2回定期的に避難訓練を行っている。訓練には夜間を想定した訓練も含まれているが、地域住民の参加は行われていない ・以前は各居室に飲料水や食料（乾パン）などリュックに入れていたが、現在は備蓄倉庫に一括して保管している。	・災害時における地域住民の協力が得られるように地域住民への避難訓練の参加、地域からの支援に関する話し合いを期待します。

事業所：ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ご利用者に対して、入居時に契約書で「安心と尊厳のある生活の支援」「秘密保持」を約束している。また、職員は自尊心を大事にした言葉かけをしている。	・職員の基本理念10か条に「個人の尊重・プライバシーを守る」をあげて、言葉かけは丁寧に心をかけている。 ・トイレの誘導時にはさりげなく、耳元で小さな声で声かけを行っている。	・「個人の尊重・プライバシーを守る」のような抽象的な課題に対し、職員の日常的な行動を徹底するのは難しいので、職員会議などでしばしば具体例について話し合っ て、相互研鑽できるように期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常生活の中で、毎日の過ごし方、洋服など、自分の思いを表せるよう働きかけ、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者はそれぞれの能力に応じて仕事の分担をしている。また、それぞれ自分のペースで過ごして職員はそれとなく見守りしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。また、理美容は本人の望むようにしていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ご利用者には、下ごしらえや盛り付けなどを手伝ってもらっている。また、希望にそった食事を提供できるよう、調査を行っている。	・職員は利用者と会話を楽しみ笑いながら一緒に食事をしている。配膳下膳を手伝っている利用者がある。 ・利用者の希望に基づいた献立で食材を調達し彩りや多量の副食で喜ばれている	

事業所：ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・お1人お一人の状態を常に観察し、また今までの習慣を家族にお聞きして食事量や水分量を適量確保できるよう支援している。献立は、栄養バランスに気をつけて作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・職員は口腔ケアの大切さを理解し、声かけ、見守り、一部介助にて口腔ケアを励行し、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・お1人お一人の排泄パターンをつかみ、誘導する事により極力オムツの使用を避けている。また、失敗した時にもプライドは傷付けないよう配慮する。	・日中は排泄パターンの把握としぐさなどでトイレ誘導を行い、オムツは使用していない。夜間はパットを使用する利用者もいるが、布団に鈴をつけ音で様子を見にゆくなどの工夫を行い誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・ご利用者になるべく身体を動かし、繊維質の多い野菜中心の献立にするなど工夫している。水分補給にも心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・ご利用者の希望の時間帯や回数に入浴することができる。柚子湯や菖蒲湯など、季節の行事を大事にして、好みの入浴剤、湯温で入浴を楽しんでいただけるよう工夫している。	・週3回10時から12時までと決めているが、希望があれば午後も入浴できる。 ・ゆず湯・菖蒲湯・入浴剤や好みの音楽をかけて入浴を楽しんでいる。	

事業所：ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・不安により休めないご利用者には、職員が話し相手になったり、個々の生活習慣を大事にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員は個々に使用している薬について常に勉強をおこなっており、目的や副作用について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ご利用者の生活歴や能力に応じて張りのある生活が出来るよう、それぞれの特技等がのばせるよう、ボランティアのかたの協力を得て支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日は散歩やドライブにでかけ、月に1回は外食にも出かけている。ベランダのベンチなどで気軽に日光浴などが出来るようにも支援している。	・天気の良い日は、事業所周辺の公園や畑を利用者の希望に沿って車椅子の利用者も個々に散歩をしている。 ・月に1度は外食や総合公園での季節の花見に事業所の車で出かけ楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご利用者が個々にお金を所持し、七夕や祭等で好きな買い物ができるよう支援している。		

事業所：ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話を持ち、自由に家族等と連絡しあっている方もいる。手紙も自由にやり取りできるよう、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングにおいてご利用者はテレビをみたり、談笑したりして思い思いにくつろいでいる。また、リビングにも手摺が付き安全にも配慮されている。	・リビングは広く明るい。季節の行事ごとに、飾り付けをしている。（訪問時は雛人形が飾られていた） ・壁には利用者のぬり絵、習字の作品や花見、外食の写真などが貼ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ご利用者が思い思いの時間を過ごす事が出来るように、しかし孤立する事がないように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご利用者が自宅にて過ごされた環境に少しでも近づけるよう居室には慣れ親しんだタンスや思い出の品、写真など多彩である。仏壇を持参しているご利用者もいる。	・クローゼット・エアコン・照明器具は備え付けで、布団・タンスや仏壇などを持ち込んでいる。 ・壁には思い出の写真や花の折り紙の作品など飾られ好みの部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリーを意識した建物で、手摺の設置は勿論車イスやシルバーカーを使用のご利用者も安全に生活できるよう工夫されている。		

事業所名	ミモザ平塚南原グループホーム
ユニット名	さくら式番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事業所独自の理念と職員の介護の心構えとしての理念10か条を掲げ、管理者と職員は、話し合い、理念を共有しサービスに反映するよう日頃から努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会、町内会に加入して地域の行事に参加し、また地域ボランティアの受け入れや地元の小・中学校との交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域住民の介護相談などを積極的に受け、地域住民が気軽に立ち寄ってくれるホームを目指している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・3ヶ月ごとに自治会長、地域包括センター職員、家族代表、当施設職員の参加で開催し、要望などを共有しサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・平塚市のグループホーム連絡会や研修会に積極的に参加をして、サービス向上に努めると共に、不明な点は介護保険課に確認している。介護相談員を毎月積極的に受け入れている。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束をしないケアについては、マニュアルもあり、また、委員会を作りスタッフが常に意識できる環境を作って取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用契約書、重要事項説明書に明記、虐待・拘束の厳禁を各職員に徹底すると共に、外部研修会への積極参加促進を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・地域福祉権利事業や成年後見制度についての研修に積極的に参加し、職員間で内容の共有化を図り、意識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・利用契約時にしっかり説明し、納得を頂いた上で契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ケアプラン作成時、利用者やご家族の希望を聞いたり、日常生活の中で利用者と職員が信頼関係を築き、利用者が意見を自由に言える様努めている。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のスタッフ会議や毎日の申し送りに中で、意見交換等は行われており、要望書の提出も行われている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・勤務実態について、代表者は毎月把握しており、スタッフ会議等で出される要望についても、検討し回答するなど環境整備に心がけている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・代表者は、個人別研修の記録により計画的に外部研修を受けられるよう体制を整えている。また、社内で研修センターを作り、それぞれの立場で育成を行う取組みが確立している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・市内のグループホーム連絡会に積極的に参加し、他グループホームとの相互研修を行うなどネットワーク作りに努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居事前相談時より利用者が持っている不安、困難、疑問を時間をかけてお聞きし、「傾聴と需要」の姿勢を忘れずに信頼関係を築くよう努めている。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面会時には家族の一番困っていること、心配事をお聞きして、必要と思われる情報を積極的に提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談をじっくり聞き、入居が適切か他のサービスが適切かを見極め助言している。情報の提供は行われており、一緒に一番適切なサービスを探っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常生活の中で、各ご利用者の得意だったことを教えてもらったりして支えあい、些細なことでも、目標を持って取り組むようにしそれが出来た時は職員と共に喜びを分かち合っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族も一緒に行事に参加していただき、共通の話題を持つ機会を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・今まで大切にしてきた友人や親族と自由に交流できるよう訪問を歓迎している。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者が孤立しないで交互に交流できるよう職員が配慮している。気のあった仲のよい利用者同士で散歩したり、席の配慮を行うなど声かけにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去された利用者の家族でも、いつでも相談にこられるように話をしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・毎日の生活の中から利用者夫々の思いや希望を把握するよう努めている。聞き取り困難な利用者についても、職員の意見や家族の意向から汲み取るようにして、情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・親族や利用者から生活歴や暮らしぶりを聞き、これまでの生活についての情報を得ながら個人の生活を大切に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・利用者の現状を把握して、一人ひとりの1日の過ごし方を一緒に考える。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・利用者の残存機能を活かした自立支援に向けてカンファレンスを毎月開催している。カンファレンスには、家族が参加していただきケアプランに反映し作成している方もいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の介護記録は個別に記入し、職員同士情報を共有しながらケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・家族の宿泊に便宜を図っている。また、家族を対象に認知症に対する勉強会を開催している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・自治会、近隣住民、地域包括支援センター、職員が参加する運営推進会議を開催し、地域ボランティアなどと協働して支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医院の医師が、月2回往診していて、ご利用者の現状を把握している。また、家族の希望を尊重して、納得のいくかかりつけ医を利用してもらっている。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日常の健康管理について気軽に相談でき支援も顔なじみの看護師に相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・医療機関と連携を密にして、早期退院に向け情報交換。相談に努め支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化や終末期ケアについての対応は、家族の意向と事業所の意向を共有化し、支援に取り組めるよう努力する。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時のマニュアルがあり、全職員は消防署が行う救急救命措置を必ず受講しており、応急対応を行うことは可能である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災避難訓練や職員による消火器取り扱い訓練が年2回実施されている。非常時にすぐかけつけられる職員が多数在住している。加えて近隣の住民からの協力の約束がもらえている。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ご利用者に対して、入居時に契約書で「安心と尊厳のある生活の支援」「秘密保持」を約束している。また、職員は自尊心を大事にした言葉かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常生活の中で、毎日の過ごし方、洋服など、自分の思いを表せるよう働きかけ、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者はそれぞれの能力に応じて仕事の分担をしている。また、それぞれ自分のペースで過ごして職員はそれとなく見守りしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。また、理美容は本人の望むようにしていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ご利用者には、下ごしらえや盛り付けなどを手伝ってもらっている。また、希望にそった食事を提供できるよう、調査を行っている。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・お1人お一人の状態を常に観察し、また今までの習慣を家族にお聞きして食事量や水分量を適量確保できるよう支援している。献立は、栄養バランスに気をつけて作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・職員は口腔ケアの大切さを理解し、声かけ、見守り、一部介助にて口腔ケアを励行し、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・お1人お一人の排泄パターンをつかみ、誘導する事により極力オムツの使用を避けている。また、失敗した時にもプライドは傷付けないよう配慮する。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・ご利用者がなるべく身体を動かし、繊維質の多い野菜中心の献立にするなど工夫している。水分補給にも心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・ご利用者の希望の時間帯や回数に入浴することができる。柚子湯や菖蒲湯など、季節の行事を大事にして、好みの入浴剤、湯温で入浴を楽しんでもらうよう工夫している。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・不安により休めないご利用者には、職員が話し相手になったり、個々の生活習慣を大事にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員は個々に使用している薬について常に勉強をおこなっており、目的や副作用について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ご利用者の生活歴や能力に応じて張りのある生活が出来るよう、それぞれの特技等がのばせるよう、ボランティアのかたの協力を得て支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日は散歩やドライブにでかけ、月に1回は外食にも出かけている。ベランダのベンチなどで気軽に日光浴などが出来るようにも支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご利用者が個々にお金を所持し、七夕や祭等で好きな買い物ができるよう支援している。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・会社の電話を使用して家族等と連絡しあっている方もいる。年賀状や手紙も自由にやり取りできるよう、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングにおいてご利用者はテレビをみたり、談笑したりして思い思いにくつろいでいる。また、リビングにも手摺が付き安全にも配慮されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ご利用者が思い思いの時間を過ごす事が出来るように、しかし孤立する事がないように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご利用者が自宅にて過ごされた環境に少しでも近づけるよう居室には慣れ親しんだタンスや思い出の品、写真など多彩である。仏壇を持参しているご利用者もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリーを意識した建物で、手摺の設置は勿論車イスやシルバーカーを使用のご利用者も安全に生活できるよう工夫されている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

ミモザ平塚南原

作成日

2011. 5. 10

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	30	医療連携のクオリティを高めて質をあげていく。	医療連携体制下のもとにあるが医療機関との連携力を迅速なものとしてご家族にも良い関係を保ち信頼を得たい。	家族への信頼を高めていくためにも、情報提供を綿密におこなう。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					